

南小の森

宗谷医師会
稚内禎心会病院

おくむら ともよし
奥村 智吉

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、旅行に出ることがめっきりなくなった3年間でした。その間に近所を歩いて探検することが楽しみになりました。その中で、自然に侵食されるままになっている昭和の自然公園を見つけました。「南小の森」と言います。私が、この「南小の森」のことを知った顛末をここに記します。

Bing検索 (ChatGPT) によると、南小の森は、稚内市緑地区にあるわんぱく冒険広場の一部です。1986年、稚内南小学校の開校40周年記念事業として整備され、面積約20ヘクタールの広さになりました。当時、森の中には遊歩道が整備されて、散策やハイキングを楽しむことができたそうです。稚内公園から自然体験散策路でつながり、稚内百年記念塔や稚内市立港小学校遊歩道などを経て、全長20kmに及ぶハイキングコースができました。この南小の森は、現在、豪雨などで崩壊し、立入禁止になっています。

この「南小の森」のことを病院職員に聞いても、知る者はわずかです。1999年に稚内禎心会病院を開設して、気づけば20年以上が経っていました。当初、稚内は自然に恵まれた土地で、自然と触れ合う生活ができると楽しみにしていました。馬を飼って、馬に乗って通勤するとかのんきなことを言っていました。仕事に追われる日々が続きました。今も馬は飼っていません。病院工事のために造成した、病院裏の稚内高校の斜面に、木々が茂り高くなったこと、そこに毎日鹿の群れが散歩？に来ることに、気づいたのもつい最近のことです。

2018年、知人の勧めでドローンを購入しました。国交省のドローン使用の認可が下りて、稚内市内は飛行制限が少ないことがわかりました。病院周囲から始まり、市内のあちこちを上空から撮影し、稚内の自然の多さに、あらためて気づきました。あちこちドローンを飛ばすために歩いていて、テニスコートの奥に、「南小の森」の大きな看板を見つけました。育みの里散策路マップとして地図があり、まず、南小の森南コースを歩きました。

気軽な気持ちで歩き始めたのですが、竹と雑草が生い茂り、足元が悪く、数十メートル侵入したところであきらめました。後日、軽登山靴など装備を整えて、再チャレンジしました。切り立った谷川を縫うように、木柱で区切られた遊歩道、木の柵で岸を支えられた小川、そこにかげられた木造の橋と木道、東屋、木のテーブルや椅子、斜面を登る木の階段とロープなど、整備された公園のあとが、約2キロメートル続いていました。ほとんどの設備が破壊され、生い茂る木々をかき分けかき分け、小川の崖っぷちを通り、倒れた木の下をくぐり、流された橋を飛んでわたり、最後は小川の中の浅瀬を歩いて、最後の

崩れた木の階段をロープをたよりに登りました。

造成された当時の資料を持っていないので原型はわかりません。GoProの写真と動画を編集してみると、かなり雄大な自然公園だったかと、当時の光景を想像することができます。南小の森北コース、港小遊歩道コース、アドベンチャーコース、すべての散策路マップのコースを何度も歩きました。歩く度に、倒れた案内板、矢印のとれた木の棒、コース脇のクイズ板などいろいろな表示物を発見しました。今では、小学校の行事で使われることもなく、全く整備されていません。数十回歩いていますが、人であったことは7回だけです。シカとキツネには毎度会います。クマ注意の看板がありますが、見たことはありません。

昭和に造られた子どもたちが自然に触れ合える場所、「南小の森」は忘れられ、崩壊が進んでいます。数日前に歩いたときは、東屋を過ぎると、橋が一つ残っているだけで、遊歩道のあとはまったくなく、倒れた木と崩れた崖で、小川の流れも変化していました。あと数年もすれば、侵入不可能なジャングルになりそうです。還暦を過ぎた自分に重ね合わせて、「南小の森」に去りゆく者の寂しさを感じています。

以上で、「南小の森」つれづれを終わります。

